

- 問1 北海道の自然環境と産業に関連して、網走市や知床半島の沿岸で見られる冬季の自然現象と、その海域の特徴について説明した文として最も適切なものを次の中から選びなさい。(2025年 群馬公立入試 類似)
1. オホーツク海に面しており、冬に押し寄せる流氷がプランクトンを運ぶため、豊かな漁場が形成される。
 2. 日本海に面しており、暖流の影響で冬も海水温が高いため、流氷が接岸することはない。
 3. 太平洋に面しており、親潮（千島海流）の影響で一年中流氷が漂い、大規模な稲作が行われている。
 4. オホーツク海に面しており、夏になると南東からの湿った季節風によって流氷が再び発生する。
- 問2 石狩川の上流域に位置し、旭川市などを中心とする上川盆地で見られる大規模な農業の特色として、最も適切なものはどれですか。(2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 石狩川の豊富な水資源と土地改良によって作られた、広大な水田が広がる稲作地帯である
 2. 冷涼な気候を活かして、牛を飼育し生乳を生産する酪農が最も盛んな地域である
 3. 大規模な機械を用いた、小麦やてんさい（ビート）を生産する畑作が中心の地域である
 4. 夏の涼しさを利用して、キャベツやレタスなどを出荷する高原野菜の栽培が中心である
- 問3 北海道の農業経営に関する統計を分析すると、経営耕地面積が30ha以上の大規模な農家が6割以上を占める一方で、都府県では1.0ha未満の農家が半数以上を占めるという対照的な構造が見られます。また、北海道では農業を主な仕事とする「主業農家」の割合が約74%に達しています。このように北海道で主業農家の割合が極めて高い理由として、最も適切な説明はどれですか。(2018年 長野県公立入試 類似)
1. 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから
 2. 都府県に比べて冬の農閑期が長いこと、冬の間だけ工業地帯へ出稼ぎに行く農家が全農家の約8割を占めているから
 3. 広大な土地を利用して、小規模な水田では不可能な低コストの米作りを行い、全国の米需要のほとんどを賅っているから
 4. 消費地である大都市から遠く離れているため、輸送費を節約するために加工品を専門に作る農家が急増したから
- 問4 日本の農作物の生産統計において、北海道が全国の生産量の約8割を占め、主に砂糖の原料として利用される寒冷地向けの作物は何ですか。(2018年 長野県公立入試 類似)
1. てんさい
 2. さとうきび
 3. 茶
 4. りんご
- 問5 日本最大の面積を持つ地域における産業構造の特徴について、統計資料から読み取れる傾向として適切な説明はどれか、次の中から選びなさい。(2022年 愛知公立入試 類似)
1. 広大な土地を利用した大規模な水稲栽培などの農業が盛んである一方で、第3次産業の就業者割合は約6割強にとどまっている。
 2. 製造品出荷額等が約25兆円と極めて高く、第2次産業の就業者割合が第3次産業を大きく上回っている。
 3. 日本最大の面積を持つが、寒冷な気候のため水稲栽培は行われず、サービス業などの第3次産業が就業者の大半を占める。
 4. 大規模な土地利用による農業は衰退しており、現在は製造業と観光業のみが地域の主要な産業となっている。
- 問6 1960年から2010年までの50年間で、札幌市の人口は約62万人から約191万人へと3倍以上に急増しました。北海道全体の人口が1950年の約430万人から2010年の約551万人へと緩やかな推移を見せる中で、このような札幌市の人口動態が北海道全体に与えている状況として最も適切なものはどれですか。(2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。
 2. 札幌市の人口増加率よりも北海道全体の人口増加率の方が高く、人口の分散が起きている。
 3. 道内の各都市が札幌市と同様のペースで成長したため、札幌市の人口占有率は低下している。
 4. 北海道全体の人口が減少局面に入ったことで、札幌市の人口も2010年に向けて激減した。
- 問7 明治時代、ロシアなど北方からの脅威に備える警備と、北海道の土地の開拓を同時に行う目的で送り込まれた兵士とその家族を何と呼びますか。(2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 屯田兵
 2. 開拓使
 3. 守護代
 4. 防人
- 問8 都道府県別にみた観光地の特徴に関する統計において、自然の観光地数が90か所以上、レクリエーション地数が250か所以上と際立って多い一方で、国指定の重要文化財（建造物）の数は30か所未満にとどまるという特徴を持つ都道府県はどこか、次の中から選びなさい。(2015年 岐阜公立入試 類似)
1. 北海道
 2. 京都府
 3. 奈良県
 4. 東京都
- 問9 北海道では、小麦や小豆などの畑作物の生産割合が全国の過半数を超える圧倒的なシェアを占めています。このような高い生産力を支えている北海道の農業の特徴として、最も適切な説明はどれですか。(2025年 群馬公立入試 類似)
1. 1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を活用した大規模農業が行われている点
 2. 夏でも温暖な気候を利用して、同じ土地で年に2回作物を作る二期作が行われている点
 3. 消費地に近い利点を活かし、ビニールハウスなどの施設を用いて出荷時期を早める促成栽培が行われている点
 4. 山がちな地形を活かした段々畑が整備され、果樹栽培と稲作を組み合わせた複合経営が行われている点
- 問10 北海道の酪農において、近年の統計で見られる「飼育戸数が減少しているにもかかわらず、全体の生乳生産量が増加している」という現象の背景にある、生産体制の工夫を説明する用語の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 経営規模の拡大と機械化
 2. 地産地消と手作業の重視
 3. 減反政策と多角経営
 4. 施設園芸農業と有機栽培
- 問11 北海道内の平均気温の分布を示した資料に基づくと、一月の平均気温の差は約九度、八月の平均気温の差は約九度の範囲で分布しています。これらの地域差に関する説明として、沿岸部の稚内市付近と内陸の高標高地点の比較に基づき、正しいものを次から選びなさい。(2016年 京都公立入試 類似)
1. 稚内市などの沿岸部では、標高が高い地点よりも八月の平均気温が高くなる傾向がある。
 2. 稚内市は最北端に位置するため、一月の平均気温は道内で最も低いマイナス十二度を下回る。
 3. 標高が高い地点では、地形の影響で八月の平均気温が二十七度を超える。
 4. 沿岸部と高標高地点を比較すると、一月よりも八月の方が地点間の気温差が小さくなる。
- 問12 世界自然遺産である知床半島を含む北海道の東部沿岸では、夏季に「海霧」と呼ばれる濃い霧が発生しやすい。この現象の要因となる「季節風」と「海流（親潮）」の関係を説明したものとして、最も適切なものはどれか。(2017年 愛知公立入試 類似)
1. 太平洋からの暖かく湿った季節風が、寒流である親潮によって冷やされた海面の上を通ることで水蒸気が凝結するため。
 2. 大陸からの冷たく乾いた季節風が、暖流である黒潮によって温められた海面から大量の水蒸気を供給されるため。
 3. オホーツク海からの冷たい季節風が、親潮の影響で冷え切った陸地にぶつかり、上昇気流が発生して雲を作るため。
 4. 南からの暖かく湿った季節風が、対馬海流の影響で温度が上昇し、空気中の水蒸気量が飽和状態に達するため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 オホーツク海に面しており、冬に押し寄せる流氷がプランクトンを運ぶため、豊かな漁場が形成される。	オホーツク海では、1月から3月にかけて流氷が接岸します。流氷には植物プランクトンが大量に含まれており、春に氷が溶け出すとそれらが一気に増殖するため、魚介類が豊富な好漁場となります。この特異な環境は、知床半島の自然保護や、網走・紋別などの地域の観光資源としても極めて重要です。
問2	答え 1 石狩川の豊富な水資源と土地改良によって作られた、広大な水田が広がる稲作地帯である	北海道の旭川市周辺に広がる上川盆地は、かつては泥炭地などが広がる耕作に不向きな土地もありましたが、大規模な土地改良と石狩川の水の利用によって、日本有数の稲作地帯へと発展しました。北海道において酪農が盛んなのは主に根釧台地、畑作が盛んなのは十勝平野といったように、地域ごとの農業の特色を区別することが重要です。
問3	答え 1 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから	北海道では広大な経営耕地面積を活かし、大型のトラクターなどを導入した大規模経営が確立されています。労働生産性が高く、1世帯あたりの農業所得を十分に確保できる環境があるため、他の仕事を持つ必要性が低く、結果として主業農家の割合が高まります。一方で都府県は経営面積が狭いため、農業所得だけで生計を立てることが難しく、多くの農家が兼業化（副業的農家など）しています。
問4	答え 1 てんさい	北海道では、その広大な土地と涼しい気候を活かした大規模な農業が行われています。「てんさい（ビート）」は寒さに強い作物で、日本の生産量のほとんどが北海道で占められており、収穫後は製糖工場で砂糖に加工されます。同じ砂糖の原料である「さとうきび」は、沖縄県や鹿児島県の南西諸島など、暖かい地域で栽培される作物であるため、産地の違いを区別することが重要です。
問5	答え 1 広大な土地を利用した大規模な水稲栽培などの農業が盛んである一方、第3次産業の就業者割合は約6割強にとどまっている。	この地域は、5.1万ヘクタールという広大な水稲作付面積に象徴されるように、第1次産業が強い基盤を持っています。産業全体ではサービス業などの第3次産業が就業者の63.8パーセントを占めて中心となっていますが、他都府県と比較すると相対的に第1次産業の存在感が大きく、独自の産業構造を形成しています。
問6	答え 1 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。	北海道全体の人口が緩やかな伸び、あるいは横ばい傾向にあるのに対し、札幌市の人口は1960年から2010年の間に約3倍以上という極めて高い伸び率を記録しています。この結果、北海道の総人口に対する札幌市の人口が占める割合は上昇し続けており、特定の都市に人口や経済機能が集中する「一極集中」という地理的特徴が顕著になっています。
問7	答え 1 屯田兵	明治政府は、ロシアの南下政策に対する国防上の必要性と、広大な未開地の開発を両立させるため、1874年に屯田兵制度を設けました。主に士族（元武士）が家族とともに北海道へ渡り、厳しい自然環境の中で現在の札幌や旭川といった地域の発展の基礎を築きました。
問8	答え 1 北海道	北海道は、明治時代以降の開拓という歴史的背景から、京都府や奈良県のような古都と比較して歴史的な建造物の数は少ない傾向にあります。その一方で、広大な土地と豊かな自然環境を活かした国立公園などの自然景勝地や、スキー場・キャンプ場といったレクリエーション施設が非常に多く、自然観光を中心とした独自の産業構造を持っています。
問9	答え 1 1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を活用した大規模農業が行われている点	北海道の農業は、明治時代以降の開拓によって農家1戸あたりの経営規模が他の都府県に比べて格段に大きいのが特徴です。広大な十勝平野などを中心に、トラクターなどの大型機械を駆使した大規模な生産体制が整っているため、小麦や小豆などの分野で非常に高い生産割合を維持できています。これに対し、二期作は主に温暖な高知県などの平野部、促成栽培は宮崎県や高知県、段々畑は愛媛県などのミカン栽培などで見られる特徴です。
問10	答え 1 経営規模の拡大と機械化	酪農家1戸あたりの飼育頭数を増やして効率を上げる「経営規模の拡大」と、搾乳ロボットなどの導入による「機械化」が組み合わさることで、労働負担を軽減しながら高い生産性を確保しています。統計上でも、100頭以上の大規模な飼育戸数の増加や、搾乳ロボットの普及率の劇的な上昇にその傾向が表れています。
問11	答え 1 稚内市などの沿岸部では、標高が高い地点よりも八月の平均気温が高くなる傾向がある。	北海道の八月の平均気温は、高い地点で二十七日度、低い地点で十八度となっており、この差には標高が大きく関係しています。稚内市などの沿岸部は標高が低いため、高標高地点に比べると平均気温は高くなります。一方で、一月の気温分布においても差は見られますが、設問のデータに基づくと、夏季における地点間の気温の開きは非常に顕著な特徴として確認できます。
問12	答え 1 太平洋からの暖かく湿った季節風が、寒流である親潮によって冷やされた海面の上を通過することで水蒸気が凝結するため。	北海道の東方沖には、北から流れてくる寒流の親潮（千島海流）が位置しています。夏、太平洋側から吹き込む暖かく湿った季節風が、この冷たい海面によって下から冷やされることで、空気中の水蒸気が細かい水滴（霧）となり、大規模な海霧が発生します。これが日照不足の原因となり、地域の農業に影響を与えることもあります。